

南神門は本殿の建物に通じる門の中で最も重要な門であり、主要入口でと見なされています。南神門は他の2つの門のように1階建てではなく2階建てであることで識別できます。南神門は明治神宮の鎮座祭があった1920年に建立され、第二次大戦の空襲によって失われなかった建物です。日本のヒノキと銅板で作られています。

近づいて見ると、飾り金具と木造部の中に小さなハート型の文様があることに気づくでしょう。これは古い日本語で「猪の目」と呼ばれる古来の文様です。今日の漢字表記ではこの単語は「獣の目」と読むことができますが、実際にはこの言葉には火除けという意味合いがあります。この建物は東京のほとんどの建物が木造であった頃、とても重要なものでした。

門を通る時には、木の横材を踏まずに通るように気をつけましょう。また、通過する際に頭を下げるのが礼儀正しいとされています。